

## 宇部市文化振興まちづくり審議会 概要

日時：令和8年(2026年)2月9日(月) 14:00～16:00

場所：市役所 5階 第1委員会室

出席者：委員6人(欠席3人)

事務局：観光スポーツ文化部：青山部長、森本次長

文化振興課：中祖課長、越智副課長、中谷文化振興係長、伊藤係員

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 文化振興ビジョン(第四次)への改訂スケジュールについて

スケジュール案を事務局から提示。委員からの確認事項はなし。

#### (2) 市民アンケートの実施について

アンケート案を事務局から提示。主な意見等は以下のとおり。

#### 問10、13

会長：問7から問9までの設問内容ではジャンルごとに聞いているが、問10の市民のニーズを把握する設問では、ジャンルにとらわれない内容にしていると整理できる。

委員：市民オーケストラや学生の吹奏楽など、ある程度定期的に開催されている、市民が趣味で結成している団体は選択肢にあって良い。

委員：問10と問13の選択肢が重なりすぎている。

また、問10の3番の「芸能の稽古、学習」、5番の「地域の歴史や文化財」、問13の4番の「伝統芸能」のあたりを、わかりやすく文言を変えると良い。

会長：問13で聞くなら、もう少し具体的な内容で、別の角度から聞く工夫をすると、より深掘りできる可能性がある。

問10で聞いた「ニーズにないもの」をどのように拾い上げてるか、という視点で組みなおしてみてもどうか。

副会長：市民が、文化・芸術活動に参加してみたいきっかけが、鑑賞や学習だ。

今の選択肢は、それに付加価値を付けた体験と考えられるため、このままで良いのではないか。

会長：(テキストをなるべく短くするために)「参加」を削除した方が良い。

アンケート量が多く疲れるため、短いキーワードにすると、視認性が高まる。

問14

追加事項についての意見

副会長：社会見学の実施や工場夜景があるので、工業地帯を選択肢に追加した方が良い。

また、霜降山はPRをもっとした方が良いので、厚東市の城跡などを追加してはどうか。

委員：ときわ公園は幼少期の写真やアルバムに映っていて、数多くの方が選択しそうだ。

問17、18

事務局：彫刻の事業を通じてシビックプライド（地域に対する市民の誇り）を感じているかを、市民に直接聞くことは初めて。数値で表せない質の部分を確認したい。

問19

会長：満足度は、実際に見に行ったことがない人には、答えようがない。

行ったことがあるか、ポスターを目にしたことがあるかなど、（ハードルを下げて）まずは関わりがあるのか聞くことが必要。

委員：設問に「ギネスの認定を受けていることを知っているか」を追加し、まず市民の関心の有無を確認してはどうか。ギネス認定を知っている人には誇りで、知らない人にはPRになる。

会長：「ギネス認定を知っているか」確認した後の設問で、「公共空間に彫刻があることが日々の生活を豊かにしていると思うか」を確認することで、市民の気持ちを取り込んでいく設問の順序にしてはどうか。アンケートを行いながら広報もできるのでは。

問20

事務局：彫刻の数は、北部地域には5点程度ある。市内24の小学校のうち、まだ設置していない地区がある。

200点のうち約100点はときわ公園、あとは空港やスポーツ広場に設置しており、日常で彫刻を目にしない市民がいる可能性もある。

コストをかけて彫刻を増やした方が良いか、維持管理について市民の意見を聞きたい。

委員：彫刻が、日常の景色に溶け込んでおり、それに対し数が多い・少ないというイメージを持つこと自体がない。数の多さ以外の選択肢があっても良い。

会長：200点あることを知らない市民がいると思う。アンケートをとる側と聞かれる側の意識に、少しずれがある可能性がある。

副会長：彫刻に対し強く関心を持っている人は、少ないのではないか。対象者が少ない内容

について、回答者が幅広いアンケートで聞いたら、結果が悪くなるのではないか。

委員：彫刻教育で、彫刻が 200 点あること知った子どもたちは驚くことが多く、アンケートに数字を入れると彫刻設置点数の多さを認識できて良い。

副会長：より具体的に、100 点は公園に設置しており、それ以外の場所にもう 100 点設置しているが、その数が多いと思うか少ないと思うかをアンケートで聞くとわかりやすい。

#### 問 2 1

会長：「充実させる」を削除する。

学習機会という言葉が多いが、実践することも大事。

楽器を演奏することや彫刻を作ることなど、実際に体を動かしたり、素材を扱うイメージが文化的には大事だ。

委員：今の彫刻が見られるのは、地域の文化財だけでなく、石炭など地域の歴史があることを含めて子どもたちに伝えることが、市の文化を引き継ぐ土台になる。

会長：子どもたちの、ものごとへの興味関心が 360 度に広がっているときに、文化・芸術的なものに触れる機会を設けることはとても大事。それを、このアンケートを通じ、市民と共有できると良い。

#### 問 2 3

事務局：「赤間硯」は、国の伝統工芸品であるため追加する予定。

#### 問 2 6

委員：文化・芸術イベントの開催について、記念会館にはベヒシュタインというピアノがあり、遠方から来る人に PR すると、活用がより活性化しそう。

楽器演奏で使いたいという問合せもあるので、設問内容でそのような使用もできることを周知してはどうか。

会長：回答の選択肢が多い方と、様々な分野に関わっている人が該当するため、「文化・芸術イベント」は、コンサートや美術展や演劇など、項目を広げると良い。

副会長：渡辺翁記念会館の改修についてなど、市の考えを設問に追加すると、より良い内容になる。

#### 問 2 7、2 8

会長：問 2 8 の内容は、アンケート終盤にあり未来志向で良い。

委員：宇部市に住んでいると、「良さ」を自覚しにくい。彫刻や渡辺翁記念会館の歴史など宇部の強みや魅力を、このアンケートを通じ改めて実感してほしい。

委員：オーストラリアには、華やかにアートを飾っている市役所もある。例えば、赤間硯や彫刻の写真、ミニチュア彫刻を飾ったり、また、作者を紹介するのも良い。

副会長：渡辺翁記念会館を、市民参画型の新しい広場の中心にできたら、現在、各地に分散している文化が1か所に集まるのではないか。

渡辺翁記念会館は新川駅が近く、交通の便も良い立地条件だと思う。いつも何らかのイベントが開催され、幅広い世代が興味を持ったものに気軽に参加できる環境になると理想的。

委員：財団の事業は、外から講師を呼ぶことを実施していた。

今後も外からの視点を持ち、事業を実施していきたい。

委員：市外から宇部に来て、人口規模と比べ文化・芸術が充実していると感じたが、住んでいるとそれが当たり前になる。宇部の貴重な地域性をどう継承するか、また話していきたい。

会長：今日審議した内容をもとに、追加のアイデアがあれば後日あげてほしい。

### (3) 意見交換

委員：まちづくりや文化の話だと、対象が小中学生や長く住んでいる人が中心になるが、大学への進学や就職を機に宇部に来た人へ、歴史を含めまずはいかに知ってもらうかが大事。

文化を後世に継承するためにも、大学生や20代30代に目を向ける機会が増えてほしい。

委員：財団では、大学生や若者を対象にした催しを行う際、ツアーは収容人数やお金があるところを回るなかで外部に意見をもらって企画を立てていた。

指定管理が変わるので、連携しながら若者も興味があるいいものを実施したい。

副会長：各団体が活動する上で、一番ネックなのが高齢化。技術をどう伝承するか考えると、保育園から中高生に広げることが課題。

また、文化会館や記念会館など施設の利用に費用が発生するので、利用料について少しずつ検討してもらえると、文化活動が少しでも行いやすい環境になる。

委員：若者は、現代美術がとても好きだと感じる。授業での食いつきも良く、授業後の生徒からの感想で、「アートは自分で見つけることができると思った」とあったが、そういった意識が大事。

大きな会館でアートを作っていくことも大切だが、アートが苦手な子に対し、身近なところにアートがあることを広げることでもできる。そのことを学生に伝えていくために、日々工夫している。

委員：文化・芸術は、新しい視点や今までと違う捉え方を与えてくれるが、いつその効果が出るかわからず、数字で表せない。

また、数字で文化度の高さや文化への満足度を測ろうとしても、根拠を決めることが難しい。

活動場所の減少や、部活動が地域移行する上での問題が解決しない中で、文化振興の

計画が進み、計画が現状と離れたものになってしまう面もある。

今後の文化振興のために、市費をかける目的をしっかりと議論してほしい。

宇部市には彫刻があるため、今回のアンケートから、彫刻を守っていくための市の考え方が見いだせると良い。

会長：新年度にビジョンを策定するため、ビジョンの内容と現状が離れないこと、市費をかける目的を市民と共有できる内容になると良いと感じた。

事務局：今回の審議内容やメールで受け付ける意見は、会長に一任とし事務局と調整する。